

令和 7 年度
第 1 回みと好文カレッジ運営審議会

日 時 令和 7 年 8 月 5 日 (火)
午前 10 時 00 分～
場 所 水戸市役所
5 階 会議室 501

みと好文カレッジ

【次 第】

1 開 会

2 委嘱状交付

3 自己紹介

4 委員長あいさつ

5 議 題

- (1) 令和7年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について
- (2) 令和7年度みと好文カレッジ事業実施計画について
- (3) その他

6 閉会

(1) 令和7年度みと好文カレッジ運営方針及び主要施策について

1 運営方針

生涯学習都市宣言を踏まえ、全市的な生涯学習の総称である「みと弘道館大学」の開催を通して、どのような状況下でも学びを止めることなく、少子・高齢化、高度情報化、地域社会における連帯感の欠如や家庭の教育力の低下等の現代的課題を解決するための学習機会を提供するとともに、学習成果を地域活動やまちづくりに生かしていくための環境づくりを進める。

また、市民の生涯学習活動の振興を図るため、社会教育活動における基礎的なことから、より専門的・実践的な知識や技術について、市民センター職員の力量を高める研修の機会を充実させるとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、時代の新たな課題に対応した学習プログラムの開発を進めるなど、市民センターへの支援・指導を強化する。

2 主要施策

(1) 市民センターへの支援・指導

ア 東湖塾の開催

市民センター職員が、生涯学習の基礎となる社会教育や家庭教育の支援の強化など、専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員としての力量を高める研修会を開催する。

さらに、多様化、高度化する市民のニーズに応えるため、市民センターとの連携を強化しながら、現代的課題解決に向けた学習プログラムを研究・開発し、時代に合った新しい講座を先進的な市民センター講座として提案する。

- (ア) 新任職員研修（集合研修、訪問研修）
- (イ) 全体研修（集合研修、ブロック研修、訪問研修）
- (ウ) 学習プログラム作成研修（ブロック研修、訪問研修）

イ 好文塾の開催

東湖塾の学習プログラム作成研修等において研究・開発された現代的課題を取り扱った企画講座が市民センター事業として根付くよう、市民センターとみと好文カレッジの共同事業として位置づけ、市民センターにおける開催を支援する。

- (ア) 市民センター職員（ブロック単位）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催
- (イ) 市民センター職員（単独）とみと好文カレッジ職員で企画した学習講座の開催

ウ 市民ニーズに対応した学習機会の提供

市民の学習ニーズの把握に努め、「個人の要望」や「社会の要請」に応じた学習をバランス良く提供できるよう市民センターの支援を行う。

- (ア) 市民ニーズを捉えた学習機会の提供
- (イ) 市民センター事業の現状と課題の調査

エ 事業評価の推進

講座や事業に参加した市民が日常生活の中で学習の成果をどのように生かしているのか、また、地域の中でどれだけ活動に関わっているのかなど、事業の成果を検証することが求められている。そのため、市民センターにおいては、実施した講座や事業の自己評価を行うとともに、運営審議会等による自己評価に基づいた第三者評価を行い、より効果的な事業運営を進められるよう事業評価を推進する。

また、みと好文カレッジ等による事業評価を実施していく。

- (ア) 市民センターによる自己評価の実施
- (イ) 市民センター運営審議会委員による第三者評価の実施
- (ウ) みと好文カレッジによる事業評価制度の実施

(2) 全市的な生涯学習の推進

ア みと弘道館大学の開催

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題、いわゆる現代的課題の解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果がまちづくりや人づくりに生かされるよう内容の充実を図る。

また、時代に合った講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による先進的な学習プログラムを市民に提供する。

(ア) 茨城しぐさ

(イ) 水戸市生涯学習サポーター協働企画講座

イ 子育て応援塾の開催

家庭の教育力の向上を図るため、親としての役割や子どもとのコミュニケーションの取り方を考え、見つめ直す機会を提供する。

(ア) 家庭教育講座

(イ) 家庭教育出前講座

ウ 「水戸市生涯学習サポーター」活動の推進

市民と行政との協働企画講座の企画・実施への参画をはじめ、「さがけ塾」での学習成果を生かした活動を推進する。また、生涯学習サポーターに対する研修会の開催など、サポーター自身が、日々変化している現代的課題や地域における課題について学習する機会を提供する。

エ パイロット事業の開発・研究

現代社会の課題や人づくりをテーマとしたもの、ICT等の新しい技術を活用した講座など、先進的な講座を開発、研究し、開発した講座を各市民センター等の社会教育施設や地域団体等でも実施できるよう支援する。

オ パパといっしょに夢らんど、ほっとひといきママたいむの開催

家庭教育支援事業の一環として、未就学児とその保護者を対象に、親子で活動する場や親同士、育児ボランティアとの情報交換の場を提供することによって、育児に対する悩みや不安を解消し、楽しみながら子育てできるよう支援する。

カ 「あなたも師・達人制度」の活用促進

「あなたも師・達人制度」の登録指導者の募集や活用を広報「みと」やホームページ、情報誌などの各種広報媒体により周知を図るとともに、市民センター等の社会教育施設やPTA、ボランティア団体、NPO等が主催する講座や研修会の講師として積極的に紹介し、登録指導者の有効活用を促進する。

キ 育児ボランティア制度の活用促進

子育て中の保護者が生涯学習活動に参加できるよう、講座開催中に別室で子どもを預かる「育児ボランティア制度」の活用促進と登録ボランティアの拡充を図るため、市民センター等の社会教育施設や社会教育関係団体に積極的に紹介し、制度の有効活用を促進する。

ク 学習情報の提供の充実

生涯学習活動を推進するため、みと好文カレッジの事業等を掲載した生涯学習情報誌の発行や新しい情報のホームページへの掲載など、生涯学習活動を積極的にPRする。

ケ 学習相談事業の充実

市民やボランティア団体等からの生涯学習相談に対し、適切で有用な助言ができるよう、各種生涯学習情報の収集と整理を行う。

コ 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有化するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図り、協働で現代的課題や地域の課題についての学習プログラムを作成、開催する。

サ 訪問型家庭教育支援事業の拡充

保健師やソーシャルワーカー、元教員などの家庭教育支援員が、家庭でのしつけなどに悩みを持つ保護者を訪問し、傾聴や情報提供をする、必要に応じて専門機関につなぐ。あわせて、市内1～2小学校区の小学1年生のいる世帯への全戸訪問や就学時の健康診断、入学説明会を活用した出張訪問を実施するとともに、新たに希望する私立幼稚園への出張訪問を実施し、子どもの生活習慣に関する相談等に対応することにより、さらなる家庭の教育力の向上を目指す。

(2) 令和7年度みと好文カレッジ事業実施計画について

令和7年6月15日時点

1 市民センターへの支援・指導

(1) 東湖塾

令和7年度予算額 40千円（報償費）

市民センター職員に生涯学習の基礎となる社会教育の知識を深める研修や専門的・実践的な知識、技術を身につけ、職員の力量を高めるための研修会等を開催する。

さらに、現代的課題解決のための学習プログラムの研究・開発を行うとともに、多様化、高度化する市民のニーズに応え、時代にあった新しい講座を発掘し、先進的な市民センター講座として提案する。

研修方法は、一堂に会する「集合研修」と各市民センターへ出向く「訪問研修」を取り入れる。

ア 新任職員研修

市民センターに人事異動により新たに着任した者や新規採用者を対象に、市民センター職員として事務事業を遂行するための基本的知識を身につける。

(7) 集合研修

- 対象者 令和7年度新任市民センター所長及び新任会計年度任用職員
- 参加者 市民センター所長1人、会計年度任用職員10人
- 日 時 4月22日（火）午前9時30分～午後3時
- 会 場 本庁舎2階 市民協働会議室こみっとルーム
- 内 容

内 容	説明者
(1) 電送窓口関係について	市民課
(2) 市民センターについて	市民生活課
(3) 生涯学習の推進について	みと好文カレッジ
(4) 地域の防災について	防災・危機管理課

(4) 訪問研修

- 対象者 令和7年度新任市民センター所長（2名）及び新任会計年度任用職員（5名）
- 日 程 6月に対象者を各1回訪問
- 内 容 ①市民センターの運営について
②生涯学習の推進について

イ 全体研修

市民センター職員として、生涯学習の中の社会教育事業を推進していくための基礎知識の習得や事業の企画立案の進め方等、職員の支援にあたる。

(7) 集合研修「第1回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター職員（所長又は会計年度任用職員）
- 参加者 ①17人（予定）
②15人（予定）
- 日 時 ①令和7年7月14日（月）午前9時～12時
②令和7年7月17日（木）午後1時～4時
- 会 場 ①石川市民センター
②見和市民センター
- 講 師 一般社団法人 水戸地区救急普及協会
- 内 容 普通救命講習Ⅰ（心肺蘇生（成人）・AED・大出血時の止血法等）
※①と②は同内容

(イ) 集合研修「第2回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター職員（所長又は会計年度任用職員）
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 未定
- 内 容 未定

(ロ) 集合研修「第3回市民センター職員研修会」

- 対象者 市民センター会計年度任用職員
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 未定
- 内 容 未定

(ハ) 集合研修「市民センター所長研修会」

- 対象者 市民センター所長
- 日 時 未定
- 会 場 未定
- 講 師 未定
- 内 容 未定

(ニ) 訪問研修

- 対象者 社会教育事業担当職員
- 日 程 8月～12月頃に、対象者を訪問
- 内 容 ①市民センターの運営について
②生涯学習の推進について

※計画訪問のほか、市民センターからの要請を受け、随時、実施する。

(ホ) ブロック研修「意見交流会」

- 対象者 ①西部ブロックの会計年度任用職員
②北部ブロックの会計年度任用職員
- 日 時 8月1日（金）～9月5日（金）までの間（各2時間程度）
- 会 場 ①赤塚市民センター
②柳河市民センター
- 内 容 市民センターにおける生涯学習事業等を進める上で疑問に感じている事について、同じ業務に携わる会計年度任用職員が一堂に会し意見交換を行うことにより、ブロック内職員の交流を深め事務の効率化を図る一助とする。

ウ 学習プログラム作成研修

社会教育事業に従事する職員として、高度で多様化した住民のニーズに対応するため、専門的・実践的な知識や技術を身につけ、地域住民に様々な学習の機会を提供する必要がある。

そこで、市民センターの職員を対象に、現代的課題や地域課題の見出し方や課題解決のための学習プログラム作成に関する知識や技術を習得することを目的とする。

- 対象者 南部ブロックの会計年度任用職員
なお、研修を希望する個別の市民センターにも対応する。
- 参加者 ①6人
②6人
③6人（予定）
④6人（予定）

- 日 時 ① 5月28日（水）午後2時～4時
② 6月17日（火）午後2時～4時
③ 7月15日（火）午後2時～4時
④ 調整中
- 会 場 笠原市民センター
- 内 容 同じブロックの職員が共同で地域課題の整理や学習プログラムのテーマを選
定し、ブロック内の地域住民を対象とした講座を企画・実施する。

(2) 好文塾 令和7年度予算額 257千円（報償費、賃借料等）

東湖塾で研究・開発された現代的課題を取り扱った学習プログラムの作成企画講座が、市民センター事業として根付くよう「好文塾」と名づけ、市民センターとみと好文カレッジとの共同事業として開催する。また、作成した学習プログラムが全ての市民センターにおいて取り組めるようモデル事業として位置づけ、市民センター活動を支援する。

南部ブロック好文塾

- 対象者 南部ブロック内住民
- ※日程、内容等については調整中。

単独好文塾

- 対象者 石川地区在住の小学4～6年生とその保護者
- 定 員 親子10組（20名）
- 日 時 7月31日（木） 午前10時～11時30分
- 会 場 石川市民センター
- 講 師 合同会社クリエイトキッズ代表 小平 文和
- 内 容 mbot（自動車型ロボット）を使ってプログラミングの基礎を学習する。

2 全市的な生涯学習の推進

(1) みと弘道館大学の開催 令和7年度予算額 989千円（報償費等）

急激な社会の変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題、いわゆる現代的課題解決に向けた学習講座を市民に提供するとともに、学んだ成果を生活の充実や向上に活かされるよう内容の充実を図る。

また、時代にあった講座や「水戸市生涯学習サポーター」との協働による学習プログラムを市民に提供する。

ア 茨城しぐさ

「相互扶助」や「共生」の精神を学び、「お互いが仲良く、気持ちよく生活する」ための方策を考えることにより、規範意識の向上と良好な人間関係を築く一助とすることを目的とする。

- 対象者 小学4年生から中学3年生及びその保護者（学校単位で実施）
- 日 程 令和8年2月末日まで随時
- 講 師 特定非営利活動法人ひと・まちなつとわーく
- 内 容 授業参観、PTA研修会、総合的な学習の時間等、希望があった場に講師の派遣を行い、ロールプレイや講義を通して人付き合いの心構えを学ぶ。

イ 水戸市生涯学習サポーター活動の推進

人材育成講座「さきがけ塾」の修了生が水戸市生涯学習サポーターに登録し、みと好文カレッジとの協働企画講座や、市民センターとの協働企画講座を市民に提供する。

なお、現在の登録者数は、第1期生から第8期生までで65人。

(7) 生涯学習サポーター企画講座

生涯学習サポーターを4～6程度のグループに分け、企画講座を実施する。

グループ	テーマ・内容（仮）
1	健康（長寿） 健康 長寿を目指して
2	生活 カラフルな暮らしのすすめ
3	歴史から学ぶ 清学の士 長久保赤水
4	家庭教育 親子で楽しく仲良く！

※日程、内容については現在調整中。

(4) 市民センターとの協働企画講座

生涯学習サポーターから、市民センターと協働で講座を企画したいグループを1～3程度募り、実施予定。

(5) 研修会の実施

生涯学習サポーターに対し、現代的課題や地域における課題について学習する機会を提供する。

※日程、内容等については調整中。

ウ 青少年講座

青少年向けの講座を実施する。

(7) 親子でハンディファンを作ろう

- 対象者 市内に居住又は通学する小学3～6年生とその保護者
- 定員 30人（15組）
- 日時 6月14日（土） 午前10時～11時30分
- 会場 鯉淵市民センター ホール
- 講師 一般財団法人関東電気保安協会 深谷 正樹
- 内容 電池の繋ぎ方によるモーターの回る向き、回り方や電流の強さなどの電流の働きを学ぶとともに、電流の正しい知識・使い方を学ぶことで、電気の安全性や省エネルギーの基本についての理解を深める。

(4) ナンテ簡単クッキング 中学生のカレーなる挑戦！

- 対象者 市内に居住又は通学する中学1～3年生
- 定員 18人
- 日時 8月19日（火） 午前10時～午後1時
- 会場 水戸市福祉ボランティア会館 2階 調理実習室
- 講師 鈴木 三智
- 内容 調理器具の使い方や、手順を確認し手際よく作業を行う計画性を意識し、グループで協力して料理を完成させることで、料理の技術向上だけでなく、目標へ向けた計画性や日常生活への自信を育む。

(2) 子育て応援塾の開催

令和7年度予算額 437千円（報償費等）

家庭の教育力の向上を図るため、子育てに関する講座や学習機会を提供する「子育て応援塾」を開催する。

ア 家庭教育講座

子育てを控えた親や子育て中の親等が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを吐露できる場を提供するとともに、体験学習をとおして、親としての役割や子どもとのコミュニケーションについて考えることにより、家庭における教育力の向上を目指す。

- 対象者 市内在住または在勤で子育てに関心のある 16 歳以上の方（子育て中の方を優先）
- 定 員 25 人（予定）
- 日 時 9 月 20 日（土） 午前 10 時～11 時 45 分
- 会 場 総合教育研究所 2 階 研究室 5・6
- 講 師 コミュニケーションインストラクター 中島 由佳子
- 内 容 ありのままの自分でハッピー子育て
グループディスカッションやロールプレイング等の体験学習をとおして、 親と
子がお互いを大切にしながら日々を過ごすための方法を学習する。

※第 2 回の開催については、対象者及び定員、日時、会場、講師、内容等未定

イ 家庭教育出前講座

保護者が家庭教育の重要性を改めて認識し、子どもたちが家族の触れ合いを通じて、「生きる力」を育めるよう、講師が幼稚園等に出向き、家庭教育に関する講座を開催する。

- 対象者 私立幼稚園，認定こども園，民間保育園の保護者等
- 会 場 各私立幼稚園，認定こども園，民間保育園
- 講 師 ①朗読家 見澤 淑恵
②コミュニケーションインストラクター 中島 由佳子
③茨城女子短期大学非常勤講師 橋本 祥子
- 内 容 ①「未来の扉をひらく絵本の読み聴かせ」
朗読・読み聴かせの専門家である講師から、効果的な読み聴かせの方法や絵本
がもつ間接体験の意義等を学ぶ。
②「忙しいからこそ知って良かった 親業」
グループディスカッションやロールプレイなどの体験学習をとおして、より良
い親子関係を構築するために、「親業」から短時間でも効果的な対応の仕方を学
ぶ。
③「どうするいやいや期」
乳幼児のいやいや期を乗り越えるための子育てを学ぶ。効果的なアプローチを
学び一緒に子育ての楽しさを共有する。
- 日 程 令和 8 年 2 月末頃まで随時予定

(3) ICT等の新しい技術に関する講座・研修，新しい技術を活用した講座・研修の開催

様々な世代を対象とし、デジタル技術を安全に活用するための正しい知識やスキルを身につけるための講座を開催予定。詳細については未定。

(4) プログラミング講座の開催

子ども向けのプログラミング講座を開催する。

※協力：特定非営利活動法人ひと・まちなつとわーく

- 対象者 市内在住又は通学する小学 4～6 年生とその保護者
- 定 員 親子 10 組（親 1 人，子 1 人）
- 日 時 8 月 8 日（金） 午後 1 時 30 分～3 時
- 会 場 見和市民センター
- 講 師 合同会社クリエイトキッズ代表 小平 文和
- 内 容 1 組 1 台のタブレットを使用し，プログラミングの基礎を学習する。

(5) 子育て支援講座の開催

ア パパといっしょに夢らんど

令和7年度予算額 140 千円（報償費・消耗品費）

家庭教育支援事業の一環として、2，3歳児とその父親を対象に、様々な講座を実施することで、子育て中の親同士が出会い、情報交換の場を作り、楽しみながら子育てできるよう支援する。

- 対象者 市内在住又は、勤務する父親と2，3歳児の親子
- 定員 親子16組（親1人，子1人） ※応募者多数の場合は抽選により決定
- 参加者 パート1 ①11組，②11組（予定），③11組（予定）
- 日時 パート1 ①5月31日（土），②6月21日（土），③7月12日（土）
午前10時～11時45分（全3回）
パート2 ①10月4日（土），②10月25日（土），③11月15日（土）
午前10時～11時45分（全3回）
- 会場 パート1 妻里市民センター
パート2 見和市民センター
- 参加費 1組200円
- 内容

（パート1）

	テーマ	講師
①	英語で遊んじゃおう	水戸市英語指導助手 ヒュー ニューウィン
②	親子アート遊び	子どもアート講師 綿引 真宏
③	ボディパーカッションと 読み聴かせ	ボディパーカッション教育振興会認定指導者 矢代 貴司

（パート2）

	テーマ	講師
①	英語で遊んじゃおう	水戸市英語指導助手 ヒュー ニューウィン
②	親子アート遊び	子どもアート講師 綿引 真宏
③	ボディパーカッションと 読み聴かせ	ボディパーカッション教育振興会認定指導者 矢代 貴司

イ ほっとひといきママたいむ

子育て中の保護者が、子どもと離れる時間を持ち、育児に関するテーマについて学び、他の保護者と意見交換をする機会を設けることにより、リフレッシュするとともに家庭教育について考える一助とする。

- 対象者 水戸市在住の乳幼児（就学前まで）のお子さんをもつ保護者
- 定員 16人 ※応募者多数の場合は抽選により決定
- 参加者 パート1 ①13人，②14人（予定），③14人（予定）
- 日時 パート1 ①6月10日（火），②6月24日（火），③7月8日（火）
午前10時～11時45分（全3回）
パート2 ①9月30日（火），②10月14日（火），③10月29日（水）
午前10時～11時45分（全3回）
パート3 ①1月22日（木），②2月5日（木），③2月19日（木）
午前10時～11時45分（全3回）

- 会 場 パート1 総合教育研究所 2階 研究室5・6
 パート2 桜川市民センター
 パート3 総合教育研究所 2階 研究室5・6
- 参加費 無料
- 託 児 無料（生後6カ月～未就学児）

○内 容

（パート1）

	テーマ	講師
①	子育てマネープラン	ファイナンシャルプランナー 高村 浩子
②	スクラップブックング	スクラップブックングインストラクター 水田 留美子
③	楽しいトイレトレ	常磐短期大学 幼児教育科准教授 木村 由希

（パート2）

	テーマ	講師
①	ことばと遊び	言語聴覚士 高橋 まどか
②	骨盤ヨガ	産後 TOMO サポ代表 多田 佑実
③	どうするいやいや期	茨城女子短期大学こども学科非常勤講師 橋本 祥子

（パート3）

	テーマ	講師
①	仕上げ歯磨き	茨城県歯科衛生士会 副会長 伊藤 敦子
②	とっさの時の救急対応	一般社団法人 水戸地区救急普及協会
③	ねむりの育て方（仮）	茨城キリスト教大学文学部児童教育学科准教授 清水 悦子

(6) 育児ボランティア「えくぼ会」

令和7年度予算額 62千円（報償費等）

ア 前期研修会

育児ボランティア中、事故や災害があった時のために応急手当の具体的な説明，実技「自動体外除細動器（AED）」をとおり，とっさの時に対応できる救命法を学ぶ。

- 対象者 育児ボランティア「えくぼ会」会員
- 参加者 ①8人
 ②7人
- 日 時 ①4月24日（木） 午前9時～12時
 ②4月24日（木） 午後1時30分～4時30分
- 会 場 水戸市福祉ボランティア会館 2階 大研修室
- 講 師 一般社団法人 水戸地区救急普及協会
- 内 容 普通救命講習Ⅲ ※主に小児，乳児，新生児対象
 ※①と②は同内容

イ 後期研修会

会場、内容、日程等については未定。

(7) 国・県・他市町村・企業・NPO等民間非営利団体・教育機関との連携の推進

令和7年度予算額 490 千円（報償費等）

国や県・他市町村との連携を図り、相互の生涯学習に関する情報を共有化するとともに、企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、それぞれが持つ人的・物的資源の活用を図る。

ア NPO法人 ひと・まちなっとわーくとの連携事業「茨城しぐさ」

NPO法人 ひと・まちなっとわーくの講師を活用した出前講座を開催する。詳細は「2 全学的な生涯学習の推進 (1) みと弘道館大学の開催 ア 茨城しぐさ」を参照。

イ 協働講座の開催

企業・NPO等民間非営利団体・教育機関と連携し、協働で現代的課題や地域の課題についての講座を開催する。

(8) 水戸市訪問型家庭教育支援事業

令和7年度予算額 1,280 千円（報償費等）

核家族化や少子化等による地域のつながりの希薄化等により、家庭教育を支える環境は大きく変化するとともに、家庭をめぐる問題は複雑化しており、社会全体で家庭教育を支援する必要性が高まっている。

本事業においては、家庭でのしつけや子どもへの関わり方等について悩みを抱えているにもかかわらず、様々な事情により相談や保護者向けの学びの場に出ることが困難な保護者に対して支援を届け、保護者への支援を通じ子どもの育ちを支えていくことを目的にしている。

ア 支援対象

市内在住の小学校1年生までの子を持つ家庭

（開始当初は未就学児を持つ家庭であったが、令和2年度から対象拡大）

イ 支援員数

11 人（元教員、保健師、ソーシャルワーカー、子育て支援団体関係者）

ウ 訪問方法

(ア) 個別申込みによる訪問

元教員や保健師、ソーシャルワーカー等の家庭教育支援員（現在 11 人）が、2 人 1 組で個別に対象家庭を訪問し、家庭教育に関する相談に乗り情報提供を行い、必要に応じ専門機関へとつなぐ個別訪問を実施している。

(イ) 全戸訪問

市内 1 校（計約 48 世帯）を選定し、小学校 1 年生を持つ家庭への訪問を行う。

(ウ) 支援員による出張訪問

- ・幼稚園の降園時等、保護者の集まる機会に、支援員による出張訪問を実施する。
- ・新入学保護者説明会や就学時の健康診断を活用し、就学予定児童の保護者への個別面談を実施する。

エ 広報活動

(ア) 小学校、幼稚園、保育所等へのチラシ配布やポスター掲示、3 歳児健康診断等でのチラシ配布

(イ) ホームページや SNS での情報発信等

(ウ) 就学時の健康診断時のチラシ配布や保護者へ事業案内

(エ) 学校長連絡会や私立幼稚園協会，民間保育園園長会等での事業周知

オ 水戸市訪問型家庭教育支援推進協議会の開催

教員や子育て支援団体関係者等 6 人の委員からなる協議会を設置し，事業の推進方針や家庭教育支援員の活動支援に関すること等を協議する。年 2 回開催予定。

○みと好文カレッジ条例

平成6年3月30日

水戸市条例第4号

改正 平成6年9月26日条例第34号

平成20年3月25日条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条及び第31条第2項の規定に基づき、みと好文カレッジの設置等について必要な事項を定めるものとする。

(平20条例16・一部改正)

(設置)

第2条 生涯学習活動の推進を図るため、みと好文カレッジを次のとおり設置する。

名称 みと好文カレッジ

位置 水戸市笠原町978番地の5

(平20条例16・一部改正)

(職員)

第3条 みと好文カレッジ（以下「好文カレッジ」という。）に、事務職員その他必要な職員を置く。

(平6条例34・一部改正)

(業務)

第4条 好文カレッジは、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 生涯学習活動の振興に関すること。
- (2) 生涯学習活動に対する支援に関すること。
- (3) その他設置目的の達成に必要な業務に関すること。

(平6条例34・一部改正)

(みと好文カレッジ運営審議会)

第5条 好文カレッジの適正かつ円滑な運営を図るため、みと好文カレッジ運営審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(平6条例34・旧第5条繰下・一部改正、平20条例16・旧第10条繰上)

(組織等)

第6条 審議会は、水戸市教育委員会が委嘱する10人以内の委員をもって組織する。

- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠により委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 審議会に、委員の互選により委員長及び副委員長を置く。
- 4 委員長は、審議会の会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を

代理する。

(平6条例34・旧第6条繰下・一部改正, 平20条例16・旧第11条繰上・一部改正)

(会議)

第7条 審議会は、委員長が招集し、委員長は、会議の議長となる。

2 審議会は、委員の2分の1以上の出席がなければ開くことができないものとし、審議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(平6条例34・旧第7条繰下, 平20条例16・旧第12条繰上)

(委任)

第8条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平6条例34・旧第8条繰下, 平20条例16・旧第13条繰上)

付 則

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

付 則 (平成6年9月26日条例第34号)

この条例は、公布の日から起算して3月を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成6年教委規則第6号で平成6年12月20日から施行)

付 則 (平成20年3月25日条例第16号)

この条例は、平成20年4月1日から施行する。

みと好文カレッジ運営審議会委員名簿

(任期 令和6年6月2日～令和8年6月1日)

(順不同，敬称略)

	氏 名	役 職 等	在任期間 年数
1	ひつ 櫃 本 真美代	常磐大学総合政策学部准教授	1 年
2	たけ 竹 内 青 慈	NHK水戸放送局コンテンツセンター長	新任
3	いけ 池 田 悠 紀	市議会代表	新任
4	かつ 勝 山 万里子	水戸ユネスコ協会常任理事	1 年
5	にし 西 海 純 子	一般市民（公募）	1 年
6	かわ 川 井 洋 子	元学校長（学識経験者）	1 期 2 年
7	た 田 山 善 堂	市学校長会代表（稲荷第二小学校長）	新任
8	こ 小 磯 重 隆	茨城大学教育学部准教授	3 期 5 年
9	おお 大 内 智栄子	市PTA連絡協議会女性ネットワーク委員	新任
10	こまつ 小松崎 良 仁	水戸商工会議所青年部理事	1 年

※竹内青慈委員，池田悠紀委員，田山善堂委員，大内智栄子委員の任期は，令和7年6月27日～令和8年6月1日